

タイムベースドメディア・プロジェクト2018年度活動報告書

担当：三輪 眞弘（代表）、前田 真二郎
履修学生：長野 櫻子、津曲 洸太、林 毅

研究概要

蓄音機や写真、映画の発明以来、人類は「装置を用いた表現」の可能性を様々な形で拡げ、「いま、ここに」存在しない出来事を（擬似）体験することが日常のこととなった。特に映像や音響を含むあらゆる「表現」がデジタル化され、それらを次々と統合していくネットワーク上の「新しい時空間」の出現はまさに私たちにとって「第二の現実」としての存在感を獲得している。

このような状況の中で、かつて「芸術」と呼ばれていたものは、私たちにとっていま、どのような意味を持つものなのか？このプロジェクトでは特に時間-内芸術、すなわち時間的経過の中で行われる様々な「表現」に注目し、「装置を用いた表現」と伝統的な芸能の習得／実践双方を通して、この問題に取り組む。それは「機械」と私たちの身体との関係をめぐる探求であり、さらにメディアと人間存在との関係性を問うことでもある。

今年度の研究計画

毎週行われるミーティングを中心に、通年の活動と学内外の発表など期間の限られた計画の両方を通して研究を行う。また、学生の作品制作などもこのプロジェクトの実践として積極的に位置づける。3年計画の初年度は具体的に下記の課題を念頭に置いてプロジェクトを進めていく予定である。

中でも、ガムラン音楽を人類が築き上げた時間-内芸術のひとつの到達点と位置づけ、単なる研究のみならずその基礎から習得することを目標とする。一方、インターネット上での作品発表はネットワーク上の「新しい時空間」における表現の可能性として、ネットストリーミングによる定期的な「放送／発表」を試みたい。また、外部発表については、それぞれ異なる前提の中でこのプロジェクトとの関わりを探っていく予定である。

- ・ガムラン音楽研究、実習、調査（通年）
- ・インターネット上での作品発表（通年）
- ・IAMAS展成果発表（2月）
- ・インターカレッジ開催（3月）
- ・日本映像学会中部支部 学生発表（3月）



IAMASガムラン楽団演奏（IAMAS2018展）



インターカレッジソニックアーツ・フェスティバル

2018年度の活動

計画したガムラン楽団の立ち上げ、ストーリーミング作品の制作、今年度のホスト校としてのインターカレッジソニックアーツ・フェスティバルの開催や学会での発表など、予定通りに行われた。

◎ 成果発表

今年度の履修学生が取り組んだジェネラティブ・ストーリーミング作品を2018 展で発表した。（あらかじめパッケージ化されたものの再生ではなく、アルゴリズムによって生成され続ける音響や映像をネットワーク配信する形式の作品をジェネラティブ・ストーリーミング作品と呼ぶ）

IAMAS 2018 展

日時：2月21～24日

会場：ソフトピアジャパン・センタービル ソピアホール

<https://www.iamas.ac.jp/exhibit19/project>

発表された作品：

1. 長野 櫻子 『わたしはここにいるだからそのことばがかきつづられるなぜならあなたがみているからだ』

作者が書くひらがなの筆跡をアニメーションで描き起こし、それらをコンピュータによってランダム再生させた、ジェネラティブ・ストーリーミング作品。書き綴られる文字の中から、鑑賞者は「言葉」を見つかるかもしれない。本作は、「言葉」からその人だけの「記憶」を思い出してもらおうための宛先のない手紙であり、永遠に続く詩である。

2. 津曲光太 『The Ensemble Machine』

昨今のAI研究の課題の一つとして、自動作曲及び自動演奏が挙げられる。本作品では、長期依存性を学習できるLSTM(Long short-term memory)を用いることで、リアルタイムでアンサンブル演奏を行うモデルを構築し、永続的に音楽を生成する。

3. 林毅 『A tune for acoustics around the world』

身の回りの音をDFTによる再構成で調和する響きに変えてしまう

◎ 視察

視察先：ジョグジャカルタ（インドネシア）

期間：平成30年8月16日～平成30年8月20日（4泊5日機内泊含む）

IAMASのガムラン楽団のアドバイザーである、大阪市立大学の中川真教授による旅行計画に従い、ジョグジャカルタで伝統芸能を視察。16日は関西空港からデンパザール経由でジョグジャカルタに移動。17日は、パクアラマン王宮にて35日に一度、夜に3時間演奏される古典ガムランを鑑賞。18日はインドネシア国立芸術大学のシスワティ教授の自宅で伝統的なワヤン劇を観劇。19日は、クラトン王宮でガムラン公演を鑑賞。これは毎日曜日に伝統舞踊とともに開催されている。19日の夜にジョグジャカルタ空港を出発し、デンパザール経由で関西空港に20日の午前中に帰国。現地での3日間はそのほかにも、影絵劇で使用する人形を制作する工房なども視察でき、貴重な知識を得た。

◎ 学会関連の発表

第38回JSSA先端芸術音楽創作学会研究会

<http://ic.jssa.info/>

日時：2019年 3月9、10日

会場：センタービル4F ホールA

セッション1で、林毅が『FTフィルターとn次元音響管による音響再構成』を発表

セッション2で、津曲洸太が『ライブパフォーマンスにおけるニューラルネットワーク可視化システムの提案』を発表

インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル2018

<http://ic.jssa.info/>

ICSAF2018コンサート1

日時：2019年 3月9日

会場：センタービル1F セミナーホール

津曲洸太が『Improvisation with RNN』を発表

ICSAF2018コンサート2

日時：2019年 3月10日

会場：センタービル1F セミナーホール

林毅が『FTフィルターとn次元音響管による音響再構成』を発表

インスタレーション作品展示

日時：2019年 3月9、10日

会場：センタービル3F ギャラリー

長野櫻子が『わたしはここにいるだからそのことばがかきつづられるなぜならあなたがみているからだ』を展示

日本映像学会中部支部第3回研究会

日時：2019年 3月1日

会場：名古屋造形大学

津曲洸太 『Processing を用いた深層学習の可視化の試み』

長野櫻子 『multi-faceted』

それぞれが自作についてプレゼンテーションを行う

<http://jasias-chubu.org/wp/?p=704>

◎ 事業連携：

IAMASこども大学 ガムラン宇宙

大垣市とRCICの連携事業に参加

日時：9月23日

会場：墨俣一夜城・能舞台

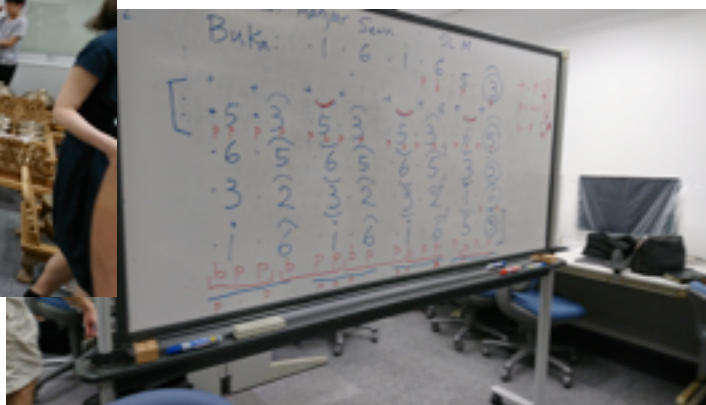
<http://www.city.ogaki.lg.jp/0000042466.html>

◎ IAMASガムラン楽団の結成：

IAMASガムラン楽団（仮名）はタイムベースドメディア・プロジェクトにおける「伝統的な芸能の習得／実践」を目的に、プロジェクト活動の一環として結成、運営された。そのために中川真教授が代表を務める一般社団法人「スペース天」が保有するガムラン楽器一式を年度を通して借り、スキル向上のために原則月2回、合計14回のレクチャー（及びレッスン）を受け、成果を可視化（可聴化）するために年度末（3月）に演奏を披露した。



IAMAS楽団の練習風景



レクチャーは楽曲の理論的側面を学びながらも実践的スキルの向上に主眼を置いたもので、ソロ市の国立インドネシア芸術大学に留学し音楽、舞踊を習得した岡戸香里氏を講師に招いた。「スペース天」との綿密な打ち合わせの上で、ジャワの様式に則って、最もシンプルなランチャラン形式の習得から開始した。練習した楽曲は「マニャルセウ」である。スレンドロ音階の比較的演奏容易な楽曲であるが、旋律の変化に富み、影絵芝居（ワヤン・クリ）でも用いられるなど、インドネシアのスタンダードナンバーと言って良い曲である。音階もさることながら、リズム面で西洋音楽などとは真逆のカウントをするため、参加者は当初は戸惑いがちであったが、徐々に慣れていった。途中、インドネシア芸術大学ガムラン学科のシスワディ氏にも来ていただき、同じくランチャラン形式のニュトロに挑戦した。IAMASガムラン楽団の参加者がコンサートで披露したのはマニャルセウだけであったが、それはガムランが多くの楽器の習得を前提とすること、1曲の中にテンポの大きな変化があり、その変化によってテクスチャが異なることなど、複雑な作業が含まれているため、この1曲に集中することになった。後半の第8回以降には、ラドラン形式のウィルジュンの習得を開始したが、成果発表には至らず、今後も継続的な練習を続けたい。



特別講師：中川 眞教授

特別講師：シスワディ教授(演奏家/マルガサリ音楽顧問)

IAMAS 2018展とインターカレッジソニックアーツ・フェスティバルでのマニャルセウの演奏は、楽団の目的である伝統的な芸能の習得／実践に大きな一歩を踏み出す立派なものだった。また、IAMAS 2018展では大阪を本拠とするガムラン合奏団《マルガサリ》を招聘し、本格的なガムラン音楽のコンサートが行われた。マルガサリを招聘したのは、楽団の展開を見据えて、ガムラン音楽のレパートリーの多様性をプロジェクト参加者に覚知してもらうことと、一般公開とすることによって、楽団の発足の学内外への周知という二つの目的を果たすためであり、それは十分に果たされたと考えている。また、プロジェクト履修生の森田理紗子はプロジェクトのメンバーではないが、ガムラン音楽をすでに学んでいるため、楽団の学生代表として全体の取りまとめや練習指導を積極的に引き受けてくれたことは幸いだった。

以上